

山頂お池めぐりコースの 自然観察



ちよっぴり深く白山の自然を…



白山の自然観察シリーズ1

ちょっぴり深く白山の自然を 味わいたいと感じた皆さんへ…

山頂お池めぐりコースへ、このテキストを手にし
て出かけてください。

ポイント標識が8か所に設置されています。そこ
では、ちょっと立ちどまってこのテキストを開いて下
さい。

自然の織りなす美、そして生き物たちがくりひろ
げるドラマは、きっと皆さんの心をつかんで離さな
いでしょう。



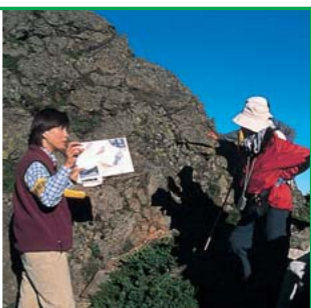
御来光をみる登山者

自然解説員といっしょに 歩きませんか

夏期、室堂と南竜ヶ馬場
には自然解説員が常駐し
ています。

いっしょに自然観察を
どうぞ…

お気軽に声をかけて
下さい。



白山は国立公園

日本に少ししか残っていない貴重な自然

何ものにもかえがたい私たちみんなの財産

そして将来の世代への最もすばらしいプレゼント

私たちはこの自然を傷つけたり汚したりはしない

＜表紙写真:大汝峰からの御前峰＞



—— 山頂お池めぐりコース

①～⑧ 解説地点
(ポイント標識)

◀ 解説地点
(お池めぐり ③翠ヶ池)

日の出・日の入時刻表

7月 1日	4:37	19:24	8月 1日	4:59	19:08
11日	4:43	19:22	11日	5:07	18:58
21日	4:50	19:17	21日	5:16	18:45

天候の良い日には、日の出の約1時間前に室堂の
太鼓が鳴らされます。

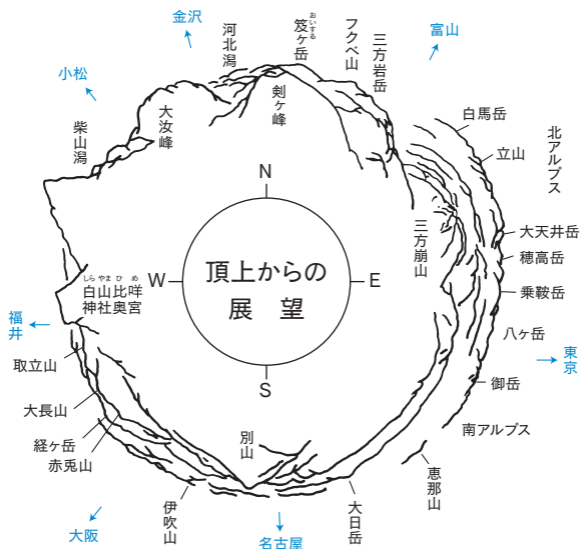
お池めぐり 1 白山頂上

今ふんだ白山の頂上——標高2,702mです

日本には、ここから西にこれ以上高い場所はありません。高山帯をもつ山もないので、高山帯を代表する植物、ハイマツは白山より西ではみられません。そのほかクロユリやハクサンコザクラなど多くの高山植物も同じです。昆虫などにも白山を分布の西限としているものがたくさんいます。

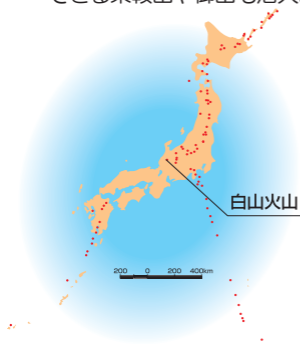


なが
頂上からゆっくり山々を眺めてきましたか？



白山は活火山

我が国では、おおむね過去10,000年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山を活火山と定義しています。現在活動していなくても、将来活動を再開する可能性を潜在的に有している火山も含めています。日本列島には108の活火山があり、江戸時代まで活動を行っていた白山もそのうちの一つです。白山山頂部から遠望できる乗鞍岳や御岳も活火山です。



ガラガラの石の間で強風に耐える

イワツメクサ(ナデシコ科)

高さ10~20cm。花は7~8月。花径約1cm、花びらは5枚だが、それぞれ深く裂けているので10枚に見える。葉は、幅1~2mmの細い葉。本州中部地方に分布する。



ミヤマタネツケバナ(アブラナ科)

高さ5~8cm。花は7~8月。花は2~6個で、径7~8mm、純白の4枚の花びらをもつ。果実は長さ2~3cmになる。葉は羽状複葉で厚い。



強そうで弱い高山植物

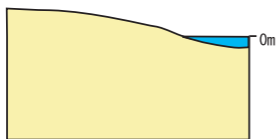
厳しい環境に生きるため、強い植物だと思われるかもしれませんが、実際はたいへんデリケート。一度破壊された植生の復元は、非常に困難です。

お池めぐり 2 白山火山の火口

まわりをぐるっと見まわしてみよう

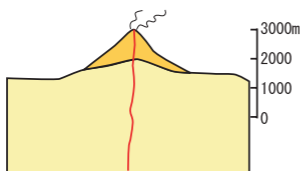
南には御前峰ごぜんがみねから御宝庫おたからこへいたる稜線りょうせんがそそり立ち、東には険しい剣ヶ峰けんがみねがあります。御前峰から御宝庫へいたる稜線は、かつて存在したと考えられる円錐形えんすいの火山体が約4,500年前に山頂崩壊ほうかいをおこしてできたものと考えられています。剣ヶ峰はその崩壊の跡地に、およそ2,300年前の噴火の際にできたものです。このあたり一帯には火口が多数あり、昔は噴煙が立ち上っていたのでしょ。白山火山の活動は江戸時代まで続き、1659年の噴火以降は静穏を保っていますが、将来、噴火を再開する可能性もあります。

白山のおいたち



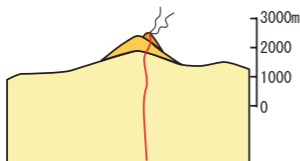
約1億数千万年前

当時、日本海はなく、白山地域はアジア大陸の東の端に位置していた。シダやソテツ、ナギ、イチヨウが生い茂り、恐竜や翼竜、ワニ、カメ、原始的ほ乳類などがすんでいた。



約10万年前

中ノ川支流地獄谷付近を頂上とする標高約3,000mの古白山火山ができた。山体中心部のほとんどが侵食で失われたため、見る影はなくなっているが、清浄ヶ原の緩斜面などに山体の一部が残されている。



約3~4万年前

今立っているあたりを中心として噴火が起き、現在の山頂部ができた。この火山を新白山火山という。活動は江戸時代まで続き、1659年の噴火以降は静穏を保っている。

大昔の様子を頭に思いうかべてみよう

…でも、このあたりからルートには注意。

残雪のある時や霧のでた時には迷いやすいところです。

お池めぐり 3 翠ヶ池

みどり が いけ

翠ヶ池は1042年の噴火でできた

翠ヶ池は白山火山の代表的な火山湖で、約965年前（1042年）におきた水蒸気爆発によってできたと考えられています。

古文書がこのことを知るきっかけになりました。「白山記」にはこう記されています……
「…ある夜、山頂に2人の童子が現われて、土石をなげて室を埋めた。その時、土石を掘った跡が2か所あり、その1つが翠ヶ池である。…」



翠ヶ池

アオノツガザクラ (ツツジ科)

高さ10～20cmの常緑小低木。花は7～8月、つぼ型で長さ6～8mm。長さ約1cmの線形の葉を密につける。葉の中央にはみぞがある。



イワヒゲ (ツツジ科)

常緑小低木。花は7月、釣鐘型で長さ約8mm、下向きにつけるが、果実は上向きにつける。針金のように細い枝にうろこ状の葉を密生するため、細かい織りひものように見える。



お池めぐり 4 岩にしがみつく植物

約450年前に火砕流が走った

おおなんじがみね

大汝峰のすそから血の池付近にかけては、今までと異なった光景が見られます。白っぽい火山灰や小礫の間に青灰色の巨岩が散在しています。これらが火砕流堆積物と呼ばれているものです。

1554年に始まった噴火により、翠ヶ池から大小の岩塊や火山灰が火山ガスと共に斜面をなだれのように流れて堆積したと考えられています。



火砕流堆積物

近づいてよく見て下さい

——— だけど踏みつけしないで……

血ノ池前の巨岩。これも火砕流が運んできたものと考えられています。岩のわれ目に多くの植物がしがみついて生育しています。近づいてよく見て下さい。

高さ10cmにも満たない植物ですが、これらの多くは草ではなく、木です。激しい風、厳しい寒さと乾燥、極限ともいえる厳しい環境の中で何十年もかかってやっと今の姿になったのです。

イワカガミ(イワウメ科)

高さ10～15cm。花は7月ごろで、先は細かく分裂する。長さ約1.5cm。革質で光沢のある円形の葉をもち、8～9月には紅葉する。



ガンコウラン(ガンコウラン科)

高さ5~10cmの常緑小低木で、じゅうたんのよう広がる。雌雄異株で、約2mmの花を雪解け直後の6月ごろつける。実は紫黒色で直径約6mm。長さ約5mmの線形の葉を密につける。



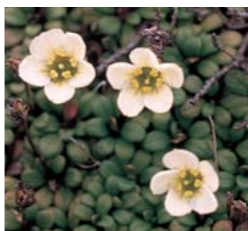
シラタマノキ(ツツジ科)

高さ5~10cmの常緑小低木。花は7月ごろ、つぶれたつぼ型で白色。実も白く球形で、直径約1cm。硬質で、光沢があり、網目状の葉脈のはっきりした葉をもつ。



イワウメ(イワウメ科)

高さ3~5cmの常緑小低木。花は6~7月、径約1.5cmでウメの花に似る。中心部に黄色のおしべ5本が目立つ。葉は固く、小さいが、密につけて、岩肌をおおう。



コメバツガザクラ(ツツジ科)

高さ約5cmの常緑小低木。花は7月。つぼ型で長さ約5mmの花が1~3個枝先に付く。長さ0.5~1cmの厚い楕円形の葉を3枚ずつ輪生する。



ツガザクラ(ツツジ科)

高さ10~20cmの常緑小低木。花は7月。釣鐘型形で長さ約8mm。葉は、長さ5~8mmの線形で中央にみぞがある。



冬の風と雪に耐える高山植物を思いうかべてみよう

……1年にたった数mmしか伸びないという

高山植物を踏みつけないで!!

お池めぐり 5 千蛇ヶ池

せんじゃが いけ 千蛇ヶ池の伝説

越前の僧、^{たいちょう}泰澄大師が白山を開いた頃（開山は^{ようろう}養老元年、717年）、多くの^{どくへび}毒蛇がいて山へ登る人々に害を加えていました。大師は千匹の蛇をさとしてこの池にとじこめたところ、はげしい雪が降り続き、とけることのない万年雪となり池にふたをしてしまいました。また、万一、千蛇ヶ池の雪がとけて蛇のでる恐れのある時には、^{おたからこ}御宝庫が崩れ落ちて池をふさぐようにしたともいわれています。



池というのに、水面は？

この池は、白山で唯一の多年性雪渓であり、水面全体が現われることはごくまれです。それは、深くほ地に多量の雪が積もるため、8月でも厚い部分は10mを超える雪があるといわれています。

足もとにも注意しよう

右の写真はキツネのふんです。夏や秋にはこの付近にまで登ってくるのです。また、石の上にはオコジョのふん（直径約2）が見られることもあります。



右の写真は、ホシガラスがハイマツの種子を食べたあとの松かさです。岩のくぼみや道端にも見つかります。



ゴミはすてないで持ち帰ろう

— 動物たちを野生のままに保護するためにも —

高山帯の動物たち

動物たちとの出会いは大切にしよう

運よくオコジョに出合ったら動かないで!! そうすれば、すぐ近くへ来てくれるかもしれません。鳥たちも同じです。ホシガラスの声は聞こえますか? 高山蝶のベニヒカゲや、風で吹きあげられてきた蝶が舞っていませんか?

オコジョ(イタチ科)

体長20~25cmで、そのうち尾は約6cm。腹は白く、尾の先は黒い。冬には尾の先の黒を除いて真白になる。獲物の多くはネズミ類。一般に高山~亜高山帯にすんでいる。



ホシガラス(カラス科)

キジバト位の大きさ。飛ぶと尾の先端部の白色が目立つ。ガーガーとしわがれた大きな声で鳴く。ハイマツの種子が大好物。



ベニヒカゲ(ジャノメチョウ科)

モンシロチョウより少し小さい。7月下旬~9月上旬頃にみられる高山蝶。陽がかげると姿を隠す。白山は分布の西限。食草はスゲ類。白山にはベニヒカゲ以外にクモマベニヒカゲという高山蝶が生息している。



時々上空にも 目を向けて…

石川の県鳥イヌワシが翼を広げると2mにも及ぶその雄姿を見せられることもあります。またアマツバメがチリリーと鳴きながら風を切って飛んでいるのを見ることもあります。

イヌワシ(成長するにしたがい白色部は消えていく)

お池めぐり 6 耳をすまして…

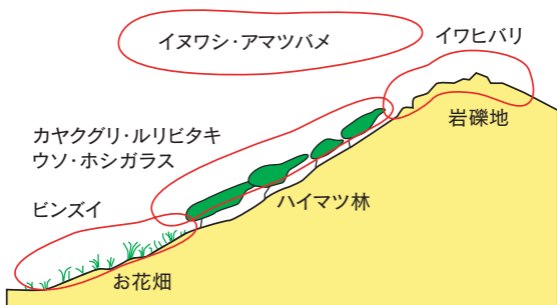
この付近は、鳥の多いところです

鳥の声が聞こえてきませんか？

ハイマツの茂みなどで何かが動きまわっていますか？

鳥たちも住みわけている

岩や礫が露出している部分を中心にイワヒバリ、ハイマツ林にはカヤクグリというようにそれぞれ主なすみ場所をわけあっています。



種名	さえずりの特徴
イワヒバリ	大きなよくとおる声で、 キュルリ、キュルリ、キュルリ
カヤクグリ	早口で複雑に鳴くが、 チリリリリという声を入れる
ルリビタキ	早口で丸みを帯び、 キョロキョロキョロリ
ウソ	口笛を吹くように、 フィーフィー
ホシガラス	しわがれた感じで、 ガーガーガー
ビンズイ	ピンピンビンズイズイズイ
メボソムシクイ	4～5拍子で、 チョリチョリチョリチョリ

イワヒバリ(イワヒバリ科)

スズメより大きい。つばさに白い2本の線。木にとまることは少なく、地上で採餌する。キュルリ、キュルリ、キュルリと鳴く。高山の岩場で繁殖。



カヤクグリ(イワヒバリ科)

スズメ大の地味な鳥。6、7月にハイマツなどの頂きで盛んにさえずる。チッチッチリリリリと澄んだ声。ハイマツ林などで繁殖する。



ルリビタキ(ヒタキ科)

スズメ大。亜高山帯で繁殖。高く澄んだ声で、キョロキョロキョロリとさえずる。地なきは、ビッ、ビッ。体の上面は、雄は瑠璃色、雌は緑褐色。冬は平地、低山にすむ。



ウソ(アトリ科)

スズメより少し大きい。頬とのが赤いのは雄。雌は全体に褐色味が強い。飛ぶと腰が白い。フィーフィーと口笛に似たやわらかい声。



ビンズイ(セキレイ科)

スズメより少し大きい。長めの尾を上下にふる。飛び方は波状。木や岩の頂きや空中で、ピンピンビンズイズイズとさえずる。



お池めぐり 7 ハイマツ林

一面に広がる深緑の絨毯^{じゅうたん}

ハイマツ(マツ科)

五葉松の一種で、幹は地をはうか、斜上する。雪どけが比較的早く、石や砂の移動が少ないところに群生し、高山帯独特の景観をつくる。



コケモモ(ツツジ科)

高さ10~15cmの常緑小低木。花は7月で、淡紅色で鐘形の小花を数個ずつ集めてつける。果実は赤く熟する。葉は長さ約1cmで、厚く光沢がある。



ゴゼンタチバナ(ミズキ科)

高さ約10cm。葉は4枚あるいは6枚が輪生する。花は7月、葉が6枚の株につく。果実は赤色。名は白山の主峰、御前峰にちなんでつけられたとされる。



ハクサンシャクナゲ(ツツジ科)

高さ2~3m。花は7月中~下旬、5裂した淡いピンクを帯びた白色の花が枝先に多数つく。葉は厚く、長さ10~15cmで外側にまきこむ。



ホンドミヤマネズ(ヒノキ科)

幹や枝は地をはう。葉は長さ約1cmで針状。上面には溝がある。果実は直径約8mmで、藍黒色で白粉をおびる。この付近以外ではあまり見られない。



お花畑のいろいろ

お花畑とよばれるように、雪がとけると植物たちは、色とりどりの花を一斉につけます。土壤の乾湿や風当たりなどによって、異なった種類が群落をつくっています。

白山の植物は早くから研究されていた

ハクサンという名のつく植物は、標準和名だけでも18種あります。これらは白山で最初に発見されたことなどによる命名ですが、白山にしかないというわけではありません。

クロユリ(ユリ科)

高さ10～40cm。花は長さ2～3cm。7月～8月上旬、茎の先に1つか2つの花を斜め下向きにつける。葉は輪生。石川県の「郷土の花」。



ミヤマキンバイ(バラ科)

高さ10～20cm。花は7月中旬～8月中旬、径約2cm。葉は、光沢のある3小葉からなり、葉脈が目立つ。



ハクサンコザクラ(サクラソウ科)

高さ約10cm。花は7月～8月中旬、径約2cm。花びらは深く5裂し、さらに各片が2つに裂ける。白山を代表する高山植物のひとつ。



水屋尻雪渓は室堂の水源

雪渓は天然の貯水池です。室堂の飲料水は一部この雪渓から得ています。雪渓を汚さないように気をつけましょう。

コバイケイソウ(ユリ科)

高さ50~90cm。7月~8月上旬、太く長い花穂をつけ、径約1cmの白花を密につける。一斉に咲く年もあるが、ほとんど開花する個体が見られない年もある。茎を抱くように大きな葉が互生する。



チングルマ(バラ科)

高さ約10cmの落葉小低木で、幹は地をはい、枝を多数出して広がる。花は7月~8月中旬、径2~3cm。花がすむと、白髪のような長い毛をもつ実をつける。



ヨツバシオガマ(ゴマノハグサ科)

高さ20~50cm。花は7月~8月中旬、茎の上段に穂状につく。羽状に深く切れ込んだ葉が、1~3段に、3、4枚ずつ輪生する。



イワギキョウ(キキョウ科)

高さ5~10cm。花は7月下旬~8月、長さ2~2.5cmの釣鐘型の花で斜め上向きに咲く。上部は浅く5つに裂ける。



ハクサンフウロ(フウロソウ科)

高さ20~40cm。7月下旬~8月中旬、径2~3cmの花を上向きにつける。花色の濃淡はさまざま。葉は手のひら状に深く裂ける。



編集／石川県白山自然保護センター

〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4

TEL.076-255-5321 FAX.076-255-5323

E-mail hakusan@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.jp/hakusan/index.htm>

写真協力 環境省

発行／石川県・(財)白山観光協会

2008.3 (2006.7. 20,000を修正)

